

平成27年 第2回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 平成27年2月19日(木) 午後2時00分～午後3時25分
2. 場 所 総合教育センター 2階 講座室
3. 主 宰 者 委員長 滝内 秀昭
4. 委員の出席 滝内 秀昭 川畑 徹朗 小林 万理子 江原 礼子 木下 誠
5. 委員の欠席 木下 誠
6. 傍 聴 人 なし
7. 関係者の出席 教育長 木下 誠 社会教育課長 中畔 明日香
管理部長 谷澤 伸二 スポーツ振興課長 前田 勝弘
学校教育部長 太田 洋子 公民館長 池田 真美
生涯学習部長 小長谷 正治 博物館長 亀田 浩
教育長付参事 二宮 毅 図書館長 三枝 芳美
教育長付参事 大西 俊己 人権教育室主幹 松山 和久
総合教育センター所長 後藤 猛虎 中学校給食推進班 田中 康之
総合教育センター副参事 村上 順一 生涯学習部主幹 善入 美津治
人権教育室長 大野 浩史 少年愛護センター所長 倉島 正佳
職員課長 升井 竜雄 学校指導課主査 八束 伸明
施設課長 田原 安治 学校指導課主査 遠藤 文子
教育企画課長 花光 潤一 教育総務課長 中井 秀典
学校指導課長 春名 潤一 教育総務課主査 中村 太郎
学事課長 大村 寿一 教育総務課 寺内 みこ
学校給食センター所長 松浦 洋一

8. 議事

- (1) 開会宣言 滝内委員長 (午後2時00分)
- (2) 日程報告 滝内委員長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。
 - 日程第1 平成27年第1回教育委員会定例会会議録及び第2回臨時会会議録の承認
 - 日程第2 教育長報告
 - 日程第3 議案第16号の審議

滝内委員長より「議案第16号は個人情報を含むため、地方教育行政の組織及び

運営に関する法律第13条第6項の規定に基づき非公開にしたいと思いますが、よろしいでしょうか」との発議があり、全委員はこれを了承。

議案第16号は非公開の秘密会となる。

(3) 平成27年第1回教育委員会定例会会議録及び第2回臨時会会議録の承認（日程第1）

平成27年第1回伊丹市教育委員会定例会（平成27年1月22日〈木〉開催）の会議録及び平成27年第1回伊丹市教育委員会臨時会（平成27年2月5日〈木〉開催）の会議録については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

管理部長より「2月分人事報告」・「1月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「1月分の寄附採納報告」について、学校教育部長より学校教育部の、生涯学習部長より生涯学習部の、教育長付参事より人権教育室の、教育長付参事兼中学校給食推進班長より中学校給食推進班の、「1月分行事実施報告」「3月分行事実施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

江原委員 7-5ページのICT活用状況統計について、学校訪問の際に特別支援学級でタブレット型のパソコンを使用した授業風景を目にしたが、そのことについて保有している台数等の状況を把握していればお教えいただきたい。

村上副参事 タブレット型のパソコンについては、各中学校に配布しているほか、必要に応じて各学校の配当予算で購入している。

特別支援学級では、文字を大きくしたり、会話をするのに用いるなどして授業に活用している。特別支援学級のみならず、通常学級においても体育の授業ではフォームを撮影し、確認してフォームを改善するために使用したり、外国籍児童生徒とコミュニケーションをとるために使用するなど、活用方法は様々である。

現在、小学校3校で5台、中学校3校で10台、特別支援学校で2台、定時制高校で2台購入しているという状況である。

江原委員 管理面等様々な問題が出てくると思うので、今後も各学校の実態を把握しておいていただきたい。

8-1 ページの体力向上推進委員会について、スポーツバッジの配布に関することは議題にあがっているのか。

早崎課長 スポーツバッジについても議題となっている。

江原委員 学校訪問の際に、今年度バッジを配布するに至らなかったことについて校長と話したが、事務局と現場に温度差を感じた。このことについては、今後も学校訪問の機会等を通じてはたらきかけをしていこうと感じたところである。子どもたちの体力向上のための重要な施策のひとつであるということを現場がより深く理解する必要があると思うので、さらなるはたらきかけを進めていただきたい。

早崎課長 現在、担当指導主事が各学校を回るなかで、実施方法や取組についての説明をしているところである。

木下教育長 体力向上に向けた意見交換をされたということであるが、具体的な内容をお聞かせいただきたい。

早崎課長 小学校の教員の意識改革や小中連携した取組、スポーツバッジの拡充について意見交換をした。この会で出た意見をもとに、来年度に幼児期・学童期の運動・遊び推進事業を実施することとして予算要求している。具体的には、指導主事と体力向上推進員を各学校に派遣し、特に本市の課題である持久走や反復横跳び、シャトルラン等の測定のサポートをしていく予定である。各学校によって課題は異なってくるので、臨機応変に対応していく。

木下教育長 教員の意識改革やスポーツバッジの配布、体力向上推進員の派遣は側面からのアプローチであって、最も必要なのは授業改善だと思っている。1時間1時間の授業を改善していかなければならない。年間の授業カリキュラムを作成し、どの時期にどのようなことを実施するのかということを確認にしなければならない。体力の向上に向けて、授業のなかで何をするのかということを考えなくてはならない。今までと同じ授業をしても体力が上がるはずがないので、その点ではどのような意見が出ていたのかお

聞きしたい。

早崎課長 各学校で体力向上プランに基づいた取組を進めており、現在報告が挙がってきているところである。例えば、投げる力に課題がある学校であれば、いかにして授業のなかに投げる動作を取り入れるかといったことを念頭に置いてカリキュラムの見直しをしている。

江原委員 ある学校長から、自校の課題は持久力であるとし、授業の始めに5分間走を取り入れることとしたと聞いた。しかし、5分間ただ漫然と走っているだけでは持久力の向上に繋がらないと思う。小学生にとっては、自分自身で目当てをもってなにかをやるということはとても難しいため、例えば、5分間で走れた距離を図ってやるとか、子どもにとって励ましになるような、評価に繋がるような進め方を考えなくてはならないと思う。

そういったことから、各学校から挙がってくる課題や取組の報告に関しては十分に精査して指導することも必要であると思う。

木下教育長 各学校の体力向上プランについては、課題と取組をまとめて次回の定例会で報告いただきたい。

小林委員 体育の授業で子どもたちが自発的に準備体操をしていたのを見たが、なんとなく雰囲気だけ体操しているようであった。号令もかけながら頑張っているのだが、なんのために動かしているのか分からずに体操しているように見えた。例えば、スポーツクラブでストレッチをするときに、インストラクターの方が「太ももの裏は伸びていますか」と一言かけてくださるだけでその動きの必要性が分かるといったこともある。

教員にはこういったこともお話しいただいて、子どもたちに意識して体操させるということから始めていただきたいと思う。

木下教育長 5-2ページの読書冊数調査について、学力向上施策の柱のひとつとして読書活動の充実を掲げて3ヶ月が経過したが、一向に数値が上がってこない。この3ヶ月でどのような取組をされたのか、担当課は現状と原因をどのように捉えているのかお聞かせいただきたい。

春名課長

11月に教頭会、1月に図書館教育担当者会、2月に読書指導員研修会を開催し、学力と読書の相関や今年度の目標読書冊数を説明したうえで、読書冊数増加のための取組へのはたらきかけを行ったところである。

図書館教育担当者会では、児童生徒による図書館の積極的な利活用と読書の推進についてお願いしたうえで、各学校の取組を紹介した。

読書指導員研修会では読書冊数増加に向けた取組について実践発表と交流を行った。特に、中学校における取組について、詳細な資料を用いた発表をしていただいたところである。会の中では、各教科の担当者と連携し授業の中で本を紹介したり、図書館の利用を促していくといったこと、学級文庫を充実させて身近に本がある環境づくりを進めることが今後の課題として挙げられた。

読書冊数調査でも明らかなように、現在学校によって取組方に差があるため、担当者会や研修会を通じて情報交換し、また、図書館司書の配置に伴う選考の際にはそれぞれの意識を整えるなどして、学校間の読書冊数の格差解消に努める。

読書冊数の数値が上がらない原因としては、時期的なこともひとつ考えられる。冬休み前の機会にたくさんの本を貸し出したということもあり、1月にはその反動がきている実情もあるようだとしている。また、11月以降、3度の機会を設けて読書活動の充実についての説明を行ってきたが、読書冊数の目標値への意識が浸透していないと感じるところもある。盛り上げるということへの取組については、各学校での工夫が見られるようになってきたが、数値目標への意識が低いことについては今後も課題であると考えている。

木下教育長

教頭会等で実態を伝えていただいたということであるが、次のステップとして、それぞれがどのような行動をとったかということが重要であって、結果が出ていない。

小学校では10冊を超えていない学校が緑丘、桜台、笹原、瑞穂、摂陽、池尻と6校あって、中学校では2冊を超えていない学校もある。今年度の1ヶ月の目標冊数は小学校が12.6冊、中学校が3.5冊であったと思うが、目標を掲げても達成のための取組がなければ意味がない。

学校訪問の際、ある中学校長から読書指導員が配置されていない日は図書館を閉館しているという話を聞いた。このような実態は担当課としてど

の程度把握しているのか。

春名 課長 教育長がおっしゃったように、読書指導員が配置されていない日は閉館している学校があるのが実態である。

木下教育長 その辺りをシビアに捉えていただきたい。

また、図書館に子どもたちにとって魅力ある本が並んでいるのか、子どもたちが借りやすい体制ができているのか等、細かいところまでチェックしていただきたい。

来年度は目標冊数を小学校は12.7冊、中学校は3.5冊と掲げているが、目標を達成するためにきちんとした取組を考えていただきたい。

春名 課長 読書指導員研修会をほぼ毎月開催し、ことば蔵との連携の中で新刊図書の紹介や読み聞かせの研修等を実施してきたところであるが、読書指導員からも教員との連携の必要性に関する声が多く聞かれるようになった。来年度は、読書指導員は学校司書として配置されることになるので、読書教育推進計画において課題意識や取組が全校体制として具体的に挙げられているかどうかということの確認もしっかりやっていきたい。

小林 委員 土曜学習について、第2回運営会議にどなたも出席されなかった学校があったのか。

また、西中学校は1月に6回実施したということだが、午前と午後で3日実施したという理解でよいかお教えいただきたい。

中 畔 課長 西中学校は1月に6日実施したということである。日にちを申し上げると、5日、6日、7日、17日、26日、31日である。

第2回運営会議にどなたも出席されなかった学校は1校あった。

小林 委員 地域によって土曜学習への意識に違いがあると思うが、それぞれの課題や取組を情報交換することによって全体の底上げが図られると思うので、運営会議の資料や会議録があれば、出席者がいなかった学校にも配布して共通理解を図るのが望ましいと思う。

川 畑 委 員 5 ページの第 4 回伊丹市いじめ防止等対策審議会（市民フォーラム）について、学校関係者の参加が少ないように感じたが、学校への周知はされていたのか。

春 名 課 長 学校長宛に開催案内は送付していたが、送付する時期が遅かったということがあり、また、生徒指導担当者会での案内が上手くできておらず、教員の参加が少なかったことについて、非常に残念で反省している。

川 畑 委 員 いじめ防止基本方針を策定して一段落という地域が多く、基本方針に基づいた取組を進め、基本方針をさらに良いものにしていこうという熱意をあまり感じなくなった。昨日、広島県福山市を訪れたが、小学校 3 校と中学校 1 校のある地域では、児童生徒が中心となり、いじめを許さない・傍観者にならないと掲げていじめ防止に取り組み、また、その取組を紹介するものを学校内に掲示したり、機会を見つけて配布したりといった活動をしている。このような熱心な地域は非常に少なく、本市でも基本方針を策定し、その後の自主的な取組がなかなか進まないと感じている。新井先生の「いじめの加害者も様々な問題を抱えた子どもである」というお話も含めてフォーラム自体は非常に良いものであった。今後、このような取組をする際には周知徹底に努めていただき、是非教員にも参加していただきたいと思う。

木下教育長 3 月 7 日に開催される教育委員会共催の「学校におけるいじめ防止シンポジウム」については、いじめ防止等対策審議会の委員の方にも出席いただくと、一環した取組が出来ると思うが、委員の方には案内しているか。

春 名 課 長 案内します。

木下教育長 7 - 1 ページの教科等研修講座について、道徳は教科化が決まり、検定教科書を使用して授業し、評価もするというを 3 年後に始めなければならないということである。道徳教育については、学校や教員によって格差が大きいことが指摘されているが、私は、今回が道徳教育を充実させる大きなチャンスであると考えている。文部科学省は、ひとつの価値を押し付けるのではなく、答えのない課題に対する色々な考え方を意見交換型の

授業のなかで協議していくことが大事であると言っている。指導方法をどのように工夫するのが重要になると思っている。

また、評価については、教諭が求める答えを述べた子を高く評価するのではなく、子どもの心の変化を観察して評価することが大切であると考えている。

このことについて、指導方法や評価の仕方をどう考えているかお聞かせいただきたい。

春名 課長

道徳の教科化については、2月4日に新しい学習指導要領案の道徳部分が公表され、現在パブリックコメントが募集されているところである。教科書の導入や評価の実施、指導方法の工夫については、言語活動の充実や問題解決的な活動の充実、道徳的行為に対する体験的な学習を適切に取り入れるということが盛り込まれているところである。

このことを受け、先日の中学校道徳担当者会では現在示されている資料を情報提供したところである。担当者においても深刻に捉えており、今後は各校で準備を進めることの確認をした。具体的には、考えさせる道徳の授業の準備を各校で進める、実際にどの項目の力を付けるのか狙いを明確にして考えさせる授業展開を図る、私たちの道徳の指導案を作っていくということについて協議が行われた。

また、「私たちの道徳」については、今後展開される道徳教育の基礎となるであろうことから、年間35時間単位のうち5時間単位程度は活用していただきたいということを説明し、同意を得たところである。

現時点では、指導要領が示されたのみで教科書等の具体的な部分については見えないことが多いなか、手探りながら準備を進め、方向性を統一させていこうということで意思確認が出来たことは有意義であったと感じている。

村上副参事

今年度新たな取組として、今後の動きに備えて道徳の教科等指導員を任命し、講座を実施している。

この講座とは別に、道徳教育研修講座を3回実施したが、第1回は道徳教育について、第2回は指導計画について、第3回は授業の進め方についてという内容で、日本道徳教育学会の行本先生に全ての講座をお願いすることで継続的な指導をいただいている。今後も道徳の教科化に向けた研修

の実施については工夫して進めていきたいと考えている。

木下教育長 「時計台2月号」に道徳の推進についての記事が掲載されているが、行本先生が「考える道徳」推進のための講座を行ってくださっていることはとても有難い。「考える道徳」の充実は、思考力・判断力・表現力を培うために非常に有効であり、学力の向上にも繋がってくると考えている。

小林委員 8-1ページの防災無線・防災避難訓練について、学校訪問等で学校を訪れた際に、履物が運動靴でない教諭がいることが気になっている。実際に子どもたちを避難させるときに、その履物で安全なのかということに不安を感じる。管理職からは指導していただいているようだが、危機管理の面から見ると徹底していただく必要があると思う。

早崎課長 有事の際に児童生徒を安全に避難させることができるよう指導していく。

木下教育長 14-1ページの生涯学習関連施設利用状況一覧について、図書館の貸出人数と貸出冊数が報告されており、前月や前年度と比較してどうかということが載っているが、今年度の目標利用者数が152万冊なのであれば、累計の冊数や人数を載せるべきではないか。

三枝館長 検討させていただく。

小長谷部長 中央公民館をはじめとする生涯学習関連施設の当月利用状況を前月及び前年同月と比較してお示ししているものであり、これはこれで意味のある書類であると考えている。年間の目標に対する現在の達成度を掲載することについては、他の施設の報告との兼ね合いもあるため、どのような形が最適かということを一度検討させていただきたい。

木下教育長 こまめなチェックをしながら、その都度現状に対する対策を講じていくことが大切であると考えているので、このことを踏まえて検討していただきたい。

川 畑 委 員 7－5 ページの I C T 活用状況の表を見ると、目標に対して今どのような状況にあるのかが分かるような形になっている。来年度は目標値を定めている事業については、進捗状況を示すような形で報告していただきたい。

(5) 議案第 1 6 号の審議（日程第 3）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第 1 6 号 平成 2 6 年度伊丹市教育委員会賞の追加決定について」を可決。

(6) 閉会宣言

滝内委員長（午後 3 時 2 5 分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育委員会委員長 滝内 秀昭

伊丹市教育長 木下 誠